

# 人文学部卒業研究

題 目 ミザンセヌ

指導教授 三摩真己 印

提出年月日 2018年 12月 14日

学籍番号 HI15017

氏 名 加藤 夕陽

## 『ミザンセヌ』

HI15017 加藤 夕陽

HI15029 島崎 葵

### 要旨

今回、私たちがこの作品を制作したきっかけは大学で知り合った友人がトラウマの話してくれたことです。彼女が抱えていた大きなトラウマを私に打ち明けてくれたことで、私は彼女を助けたいと感じました。そして、彼女以外にもトラウマを抱える人を少しでも減らしたいと強く感じ、卒業制作で何か発信できればいいと思ったので制作を始めました。

制作するにあたって、登場人物それぞれがトラウマを抱えてしまった過程から克服するまでを描きました。同じことを体験してもトラウマにならない人もいますし、トラウマになる人もいます。また、捉え方によってトラウマとして記憶に残るものが異なってきます。そこを映像でどう表現するか苦労しました。映像の中だけでなく、現実でも相手のことを考えて行動してほしいので、登場人物の表情や行動を工夫しました。自分だけでなく、周囲の人を思いやる気持ちがいかに大切かということを伝えることができるように卒業制作にしました。

本作品では、中学生の時にクラス全員で埋めたタイムカプセルがある人物によって掘り起こされてしまった出来事を中心に広がっていきます。タイムカプセルが掘り起こされた事件は、様々な形で多くの人のトラウマになってしまいました。主人公のミアはクラス全員で埋めたタイムカプセルを1人の男の子が掘り返しているのを目撃してしまいます。クラスみんなが悲しんでいましたが、1人の男の子のために目撃したことを口外しませんでした。しかし見たことを口外すべきだったのか悩み、トラウマになってしまいます。真実は別の人が掘り返していたのですが、その場にいた男の子がやると勘違いしてしまうのです。つまり、見たことだけを信じ自分の中に落とし込んでしまったということです。時間を経て同窓会で、目撃してしまったことを伝えられたのでトラウマを克服します。このようにトラウマの克服法もそれぞれです。私たちはトラウマの克服法の一つとして、記憶の書き換えを提案し、作品に取り入れました。トラウマはあるきっかけで過去の記憶がフラッシュバックして蘇ってしまいます。しかし記憶は映像と同じで編集することができます。そこを利用して自分の記憶を違うものに変えてしまうことで、普通の過去の記憶の一つになります。過去の普通の記憶はフラッシュバックしてこなくなり、次第に忘れることで克服となるでしょう。このように現在トラウマを抱えている人も、きっかけがあれば克服できるかもしれないと感じてほしいです。

### キーワード

トラウマ 記憶 映像 フラッシュバック 克服

## 目次

1. テーマを選んだ理由	1
2. ねらい	1
3. 構成	2
3-1 : アバン	2
3-2 : タイトル	2
3-3 : メインクレジットタイトル	2
3-4 : フラッシュバック	2
3-5 : 同窓会のお知らせ	3
3-6 : 同窓会	3
3-7 : 帰り道	3
3-8 : ミアとボッタ	4
3-9 : クメの部屋とニュース	4
3-10 : 真実	4
3-11 : ミザンセヌ	5
4. 作品を制作する時に気を付けたこと	5
5. 作品を通して伝えたかったこと	6
6. 実際の制作で学んだこと	7
7. 参考文献	9
付録1 構成	i
付録2 台本	xi